

Hitachi Cloud

新たなステージをめざす

日立のクラウド戦略

クラウドサービス提供の当初より、日立は利便性やアジリティなどクラウドの特性に加え、信頼性や安定性など従来IT分野で培ってきた長を反映したサービスを提供してきました。ITによる社会イノベーションが進みつつある現在、クラウドはその基盤として今までにない役割が求められています。また、グローバルなパブリッククラウドと新たなクラウド技術の普及はITの使い方に大きな変化を及ぼそうとしています。今回の特集では、このような状況に対して日立が打ち出した新たなクラウド戦略と、それに基づくクラウド基盤、サービスやソリューションをご紹介します。

クラウドへの お客さまニーズが多様化

当初はITリソースの一時的利用やコスト削減、調達スピードの速さなどに注目されていたクラウド。近年ではシステム開発や情報系システムなどとどまらず、大規模な基幹業務などへの導入が始まっています。これに対し、日立は当初より信頼性・安定性の高いクラウドサービスにより対応してきました。

IT技術の進展は、ヘルスケア、交通、エネルギー、設備管理などの分野でM2M^{※1}やIoT^{※2}などを用いて生成される多種多様なビッグデータを活用し、革新的なビジネス創出をもたらしています。付加価値の高い情報の利活用による新たなビジネスを実現するためのIT基盤としての役割がクラウドに求められています。

※1 Machine to Machine
※2 Internet of Things

多様なクラウドの普及と 「使う技術」

このようなニーズに対応して、多くのクラウドサービスが登場しています。ITリソースの利用を対象とするIaaS^{※3}/PaaS^{※4}の分野では、一時・短期的な処理量の増大に対応したスケーリング、ワールドワイドに配置したキャッシュサーバを利用したコンテンツ配信、モバイル機器との連携などがサービスとして提供されるようになりました。また、アプリケーションプログラムをクラウド上で提供するSaaS^{※5}分野では、種々の業種・業態向けに多くの業務アプリケーションが用意されています。

企業が自社でこれらの機能を開発する場合、膨大な投資が必要となります。また、法制度の変更などに追随させるための保守費用が必要となります。クラウド

サービスでは、クラウド事業者が負担するこれらのコストを、多数のクラウドを利用する企業のサービス料により負担することから、1社当たりの負担が軽減されます。あわせて法制度の変更、新技術への対応も迅速になされます。

このような経済合理性の面からも、クラウドの利用は現代の企業において不可欠な状況になりつつあります。反面、それぞれのクラウドサービスは、システムの仕組み、利用の方式、課金の体系などが異なり、それらの特質を踏まえた利用が必要となります。また、業務アプリケーションの中から使用されているクラウドサービスを含めたシステム全体での健全性の確認や異常の検知など、従来の自前システムの運用・管理とは異なる技術も必要となっています。すなわち、クラウドを効果的に使用するための「使う技術」

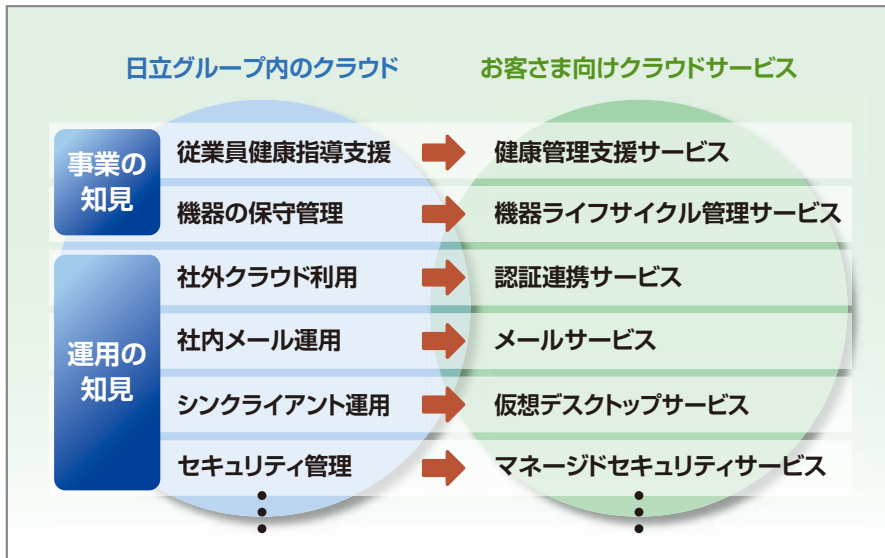


図1 実業・社内IT運用ノウハウのサービス化

が求められています。

- ※3 Infrastructure as a Service
- ※4 Platform as a Service
- ※5 Software as a Service

日立のクラウド戦略

このような中で日立は、「われわれが果たすべき役割は何か」「お客さまが真に望まれているサービスは何か」を改めて考えました。その結果として生み出されたのが、日立の新たなクラウド戦略です。

その柱は大きく2つあります。1つは「日立の実業・社内IT運用のノウハウをサービス化」、もう1つは「パートナーとの協創と使う技術の強化」です。この2つのアプローチによって、日立は情報利活

用時代の多様化、高度化するビジネスニーズに応えていきます。

日立の実業・社内IT運用のノウハウをサービス化

日立はクラウドのベンダーであると同時に、グローバルに多種多様な業態の多くのグループ会社と、全体で従業員32万人^{※6}を擁する国内でも最大規模のITユーザーです。強固なガバナンスとセキュリティ対策のもと、これらワールドワイドに構築したシステムやサービスの利用実績、広範な実業で磨いたIT運用のノウハウを、お客さま向けのサービスとして提供していくのが「社内IT運用ノウハウのサービス化」というアプローチです。

日立グループ内のITシステムの多くはクラウド化されています。このクラウド運用のノウハウは、日立のクラウドサービスの運用やサービス内容に応用されています。また、社内メール運用やシンクライアント運用は、それぞれ「メールサービス」「仮想デスクトップサービス (DaaS^{※7})」といったお客さま向けクラウドサービスとして提供しています。

日立グループは、ヘルスケア、エネルギー、交通、都市開発など、多岐にわたる事業分野においてさまざまな実業を繰り広げています。これらの実業において、事業の経験をととして得られた多くのノウハウは、アプリケーションや業務プロセスの中に実装され、SaaSやサービスとして提供することを進めています。例えば、日立社員向けの従業員健康管理指導支援は「健康管理支援サービス」として、また機器の保守管理は「機器ライフサイクル管理サービス」として提供しています(図1)。

- ※6 2013年度末時点
- ※7 Desktop as a Service

パートナーとの協創と使う技術の強化

クラウドの種類は1つだけではありません。ミッションクリティカルで大規模な基幹系業務を担うには、高信頼・高セキュアなマネージドクラウドが必要です。低コストかつグローバルにリソースを調達するならばパブリッククラウドというように、適材適所

でバランスのとれた複数クラウドのビジネス活用が、これからの主流となります。

パブリッククラウドに関して、日立はこれまで、VMware[®]、Microsoft[®] Azure[™]、Amazon Web Services[™] (以下、AWS)、Salesforce.com[®]をはじめとする世界のクラウドベンダーとのアライアンスを強化してきました。日立では、これらパートナークラウドの「使う技術」の向上のため、それぞれのクラウドの認定技術者育成などを行ってきました。

クラウド戦略プロジェクト

前述の「日立の実業・社内IT運用のノウハウをサービス化」と「パートナーとの協創と使う技術の強化」を中心として、クラウド全体の強化に向けて、日立では2013年12月から、グループ会社を含めた事業部門・研究開発部門にまたがる約300名体制の「クラウド戦略プロジェクト」を立ち上げ、新たなクラウド基盤の開発に取り組んでいます(図2)。

以下では、このプロジェクトによる成果と新サービス、機能をご紹介します。

■フェデレーテッドクラウドとクラウド統合ネットワーク

Federatedとは“つないだ”“連合した”を意味する言葉で、お客様のプライベートクラウド、日立のマネージドクラウド、さらに

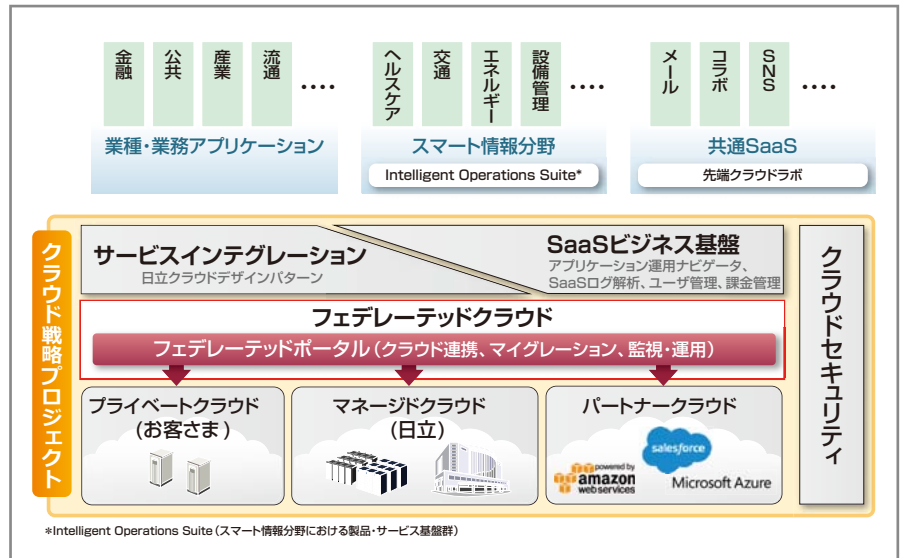


図2 新たなクラウド基盤の体系

Microsoft[®] Azure[™]やAWSといったパートナークラウドをつないで利用するものです。これを裏づけるパートナークラウドとのセキュアで高速な接続を「クラウド統合ネットワーク」として用意しています。

本サービスの中で提供される「フェデレーテッドポータル」を使えば、お客さまは複数のクラウドを1つのポータルで管理でき、運用負担を大幅に減らすことが可能です。

■サービスインテグレーションとSaaSビジネス基盤

クラウドサービスを組み合わせ合わせたアプリケーション開発のために、デザインパターンなどを中心とした「サービスインテグレーション」、SaaS環境の立ち上げに不可欠な認証・課金・ユーザー管理機能などを

提供する「SaaSビジネス基盤」を用意。お客様のビジネスに必要なシステムをスピーディかつ適切なコストで構築できます。

「Hitachi Cloud」をグローバル統一ブランドとして展開

これまで日立は、日立クラウドソリューション「^{ハーモニアス} Harmonious Cloud」というブランドで、高信頼・高セキュリティなクラウド環境を実現する製品・サービス群の開発・提供を進めてきました。

今後は、グローバル統一ブランド「Hitachi Cloud」のもと、日立グループがグローバルに一体となって推進する社会インベーション事業を支えるクラウド基盤の実現に向け、さらなる強化を図っていきます。

お問い合わせ先

(株)日立製作所 クラウドサービス事業部
<http://www.hitachi.co.jp/cloud-inq/>

■ 情報提供サイト
<http://www.hitachi.co.jp/cloud/>